

令和2年度 事業報告

部門名： 総務課

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者が安心して過ごせる環境の維持・管理	○	各施設のマスク・消毒液等の在庫状況を確認し、納品が間に合わない施設への対応等を行った。
2. 職員が安心して働ける環境の維持・管理	○	コロナウィルスの影響で、実施期間が例年と異なったが、法令どおり健康診断(夜勤者は2回)と、ストレスチェックの実施した。
3. 官公庁、取引先等外部との良好な関係を保ち法人を守る	○	今年度は事業所の移転が6月と12月にあったが、規程の改定及び期日までに各種届出を行い、業務に支障なく事業の運営ができた。
4. 新入職員だけではなく、総務課全員のレベルアップを目指す	○	総務課の仕事の幅を広げる目的で、一昨年新入事務職員は3ヶ月配置転換を行った。
5. 各移転施設の開設に向けて、各種準備・整備・届出と円滑な運営開始	○	経費削減に努めるよう、購入時の相見積もり、必要最低限の物品購入など継続した。余剰購入になりそうな際には指摘等を行った。
実行方針	結果	備考
1. 経費削減を念頭に無駄のない且つ非常時にも対応できる日々の備品と施設管理を行う	○	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、かかり増し経費の中で、非常時のマスク・消毒液の他、感染対応に関する備蓄について、各施設に準備を促した。
2. 求人活動の促進、離職率低下に向け現場職員の目線に立ち人材定着の強化を図る	○	ハローワーク、市内広報紙、法人ホームページなど求人活動を行った。また、マイナビ求人サイトへの公開の他に、秋口には集団説明会の参加も今年度は行った。
3. 法人規程をはじめ、各種法令や基準等を熟知し総務課としての役割を果たす	○	規程に遵守し業務にあたり、規程の変更等も行い各事業所への配布も迅速に対応した。
4. 自分の役割を理解し、広い視野を持って法人内各施設と連携を図る	△	報告、連絡、相談し各々の職員が業務を理解し職務にあたった。しかし、柔軟な対応や予測した業務ができるレベルまでは至らなかった。
5. 総務課の職員が各々協力し準備を行い、開設後は事業と日々の業務を円滑に行う	○	居宅サービス事業所の移転、特別養護老人ホーム レインボーハイツの移転準備に際し、他職種と情報交換を行った。開設後の事業が円滑に運営できるよう、各種届出を行った。
定量的な目標	結果	備考
各部門が定量的目標を達成できるよう、全面的にバックアップ!	○	欠員事業所への職員募集の手続き、課の職員でできる人員不足事業所への協力体制、必要に応じた物品購入等を行った。
定性的な目標	結果	備考
各部門がスムーズ且つ効果的に業務を遂行できるよう支援する!	○	外部研修の他、官公庁からの通達文書の配信、送信等、事業の運営に役立てる情報発信など行った。

令和2年度 事業報告

部門名：給食課

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運 営 方 針	結 果	備 考
1. 利用者の状態に合わせ、安心、安全な食事を提供します。	◎	米飯の硬さ、副食のきざみ等調節区別を実施
2. 利用者に満足していただける食事の工夫をします。	◎	利用者の希望に添えるよう努力している
3. できるだけ最期まで口から栄養を摂り、食事を楽しんでいただける工夫をします。	◎	利用者の希望に添えるよう努力している
4. 旬の食材や地元食材の使用を心がけます。	◎	
5. 安価で良質な食材を無駄なく使用します。	○	値上がりした商品が多くあった
実 行 方 針	結 果	備 考
1. 多職種で連携しながら、利用者の食形態をこまめに見直し、一人一人に合った食事を提供します。	◎	
2. 味、彩り、温度、盛り付けに気を付け、質の高い食事作りを目指します。	◎	
3. 研修会に積極的に参加し、情報収集と周知を行います。	○	研修等から得た情報は、書面にて周知を行った
4. 網走らしい、季節感のある献立作りをします。	○	行事食を取り入れているが、近隣材料の使用は難しい
5. 在庫管理をまめに行い、無駄をなくすよう心がけます。	◎	
定 量 的 な 目 標	結 果	備 考
1. 3日分、80名分の非常用食材を購入します。	△	目標量は確保できていない
定 性 的 な 目 標	結 果	備 考
1. 食事で季節を感じ「おいしい」と言ってもらえる食事作りを目指します。 2. 衛生管理を徹底し、食中毒を予防します。	○	今後も努力する

令和2年度 事業報告

部門名: 業務課

結果凡例: ◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. その人らしい生活が継続できるように、ユニットケアを実践できるように勉強します。	○	毎月、施設備品購入及びユニットケアについて全職員を対象に研修会を行った。
2. 一人一人の思いや気持ちを大切に、理解しながら支援していきます。	○	丁寧に、優しく会話を行うようにし、利用者個々の身体状況や精神状況の把握に努め、業務を行ってきた。
3. 自分らしく暮らし続けることができるよう一人一人の生活習慣に沿った日常生活援助を提供します。	○	早期の症状発見、対応などを通して認知症状の悪化を防ぎ、入居者の皆さんが、安心した日常生活を送られるように務めた。
4. 住み慣れた地域とのつながりを大切に、生きがいを持って生活が継続できるようお手伝いします。	×	今年度は市内への住み替えと新型コロナウイルス感染対策にて、交流を全て行うことができなかった。
5. 施設で働くそれぞれのスタッフが定着して働きやすい職場になれるように考えていきます。	○	スタッフ一人ひとりの個性を尊重し、チームとして働くことができるように話し合いを重ねてきた。
実行方針	結果	備考
1. ユニット会議でユニットケアのあり方を考えていきます。他のユニットケアの施設見学。	○	新型コロナウイルスの影響もあり、施設見学を行えなかったが、10月からのユニットケアに関する勉強会は行うことができた。
2. 認知症ケアの理解を深め、丁寧な対応で利用者に安心できる介護を提供します。	○	体調不良による認知症状の悪化や、既往歴から考える病状悪化など主治医と協力しながら、入居者が安心して生活できるように務めた。
3. 個別の生活スタイルを見直し、スタッフ間で共有できるシステムを構築します。	△	新型施設開所に向けた、24時間シート作成におけるユニットケアの介護方法のシステム作りまでは至らなかった。
4. 網走市の古くからある行事参加の計画を立て、懐かしさや喜びを感じて生活していただきます。	×	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今年度は全ての行事等への参加を取りやめた。
5. ストレスを抱え込まないように、なんでも相談できる体制を作り、働きやすい職場づくりを構築し離職ゼロを目指します。	○	通勤による支障と体調不良による離職者2名であった。
定量的な目標	結果	備考
1. 入所及び短期入所での稼働率95%を維持できるようにします	×	特養の稼働について、12月の新施設移転により定員が42人⇒50人に増加したが、すぐに入所が埋まらなかったため、入所者稼働率が減少した。短期入所生活介護についても、新型コロナウイルス感染症予防での利用控えなどがあり、減少となった。
2. 毎月入所者40名、短期入所7.8名を維持できるようにします。3月までに47～50床稼働を目指します。	◎	入所者数は3月31日までに70名中64名の入所者数となった。
定性的な目標	結果	備考
1. 新施設開設に向けて、入所70床、短期入所10床を稼働していくにあたっての人材確保。	△	介護職員を1ユニット常勤10名まで配置することが困難であった。また、看護職員においても補充が出来なかった。
2. レインボーハイツを利用される利用者・家族に、安心感・満足感を提供できるサービスを目指します。	○	新型施設開設前に施設見学会を1度行うことができたが、以後、施設内を案内することができなかった。また、WEB面会の準備までは整った。

令和2年度 事業報告

部門名： 網走レインボーハイツ デイサービスセンター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 人と人とのつながりを大切にしてたくさんの笑顔をつくれるデイサービスを目指します。	○	室内での活動が中心で提供できるプログラムが制限された中でも楽しんでもらうことができました。
2. 人生の先輩である利用者様へ尊敬の念を抱いて日々のケアをしっかりと行っていきます。	○	親切な介護、丁寧な声掛けを心がけて対応しました。
3. 住み慣れた住宅で過ごすことができるよう、デイサービスがお手伝いします。	○	ご自宅での生活を踏まえたデイサービスでのサポートを考えてサービスを提供しています。
4. 網走市民として積極的に地域交流、催しへ参加します。	×	感染症対策のこともあり地域の交流などが行えませんでした。
5. 定員増加に伴い、新規利用者様の開拓、現利用者様のご利用回数の増加を図ります。	△	感染症対策のため3密を考慮し、一日の人数増加を控えていました。
実行方針	結果	備 考
1. 利用者様、ご家族のニーズに沿ったケアプラン作成、実施、モニタリング、評価を行います。	○	ニーズに沿ったケアプランを作成し実践を行っています。
2. 利用者様に寄り添って「やりたいこと」「必要なこと」をお手伝いできるデイサービスを目指します。	△	感染症対策にて活動に制限があり、お手伝いできることが少なかった。
3. プログラムの多様化、行事の充実化を図り、楽しく通える場所を作ります。	△	室内でのレク、体操は充実化したが、外出の企画などは行えませんでした。
4. 網走の文化、季節を感じられるようにボランティア、市などの各関係機関と連携を行います。	×	地域のイベントは中止、ボランティアとの交流も行うことができませんでした。
5. リニューアル(移転)によって新たなニーズの発生を見逃さずご利用につなげていきます。	○	リニューアルによって今まで設備上や地域の状況で利用できなかった方が利用できるようになってきています。
定量的な目標	結果	備 考
1日平均20.0件を目指します。	○	1日平均20.8人(前年比 +0.3人)
年間実績数 6,200件、月520件 を目指します。	○	年 6,270件 (前年比 -94人) 月平均 522人 (前年比 -8人)
定性的な目標	結果	備 考
・施設内・外の勉強会、研修を通し、スタッフが知識をもってケアに臨むことができるようにします。	△	外部の研修は参加できませんでした。内部研修では感染症対策を中心に学習を行いました。
・「おもてなし」の心を持って施設、送迎車の掃除、整理整頓を行います。	○	感染症対策に伴い、施設内、送迎車の消毒をこまめに行っています。

令和2年度 事業報告

部門名: レインボーハイツ あいむデイサービスセンター

結果凡例: ◎100%、○80~99%、△79%~50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 人と人とのつながりを大切にし、「愛(あい)」と「夢(む)」あふれるデイサービスを提供します。	○	利用者様が孤立しないように、席の工夫や職員が仲を取り持ち、会話が弾むように努めました。
2. 人生の先輩である利用者様に対し「親切、丁寧、誠実」を心掛けたサービス提供します。	○	利用者様個々に合わせて、紙に書いて、近くに寄り添い反応を確認しながら説明することを心掛けていました。
3. いつまでも住み慣れたご自宅で生活が出来るように通所サービスにて援助を行っていきます。	○	ご家族やケアマネジャーとの連絡、バイタルリンクの活用を行い、必要な援助の確認を行う事が出来ました。今後も継続が必要。
4. この町に生活をする市民として地域交流、行事へ積極的に参加します。	×	コロナウイルス肺炎により、地域行事の中止や外出制限により、地域交流は出来ませんでした。
5. 利用定員を意識しながら稼働率の安定を図ります。	×	利用者様のコロナウイルス肺炎感染予防、体調不良による長期お休みが重なり、安定した稼働率を維持することは出来ませんでした。
実行方針	結果	備考
1. 利用者、ご家族のニーズに添ったケアの実施。共に楽しく過ごす事のできるデイサービスを提供。	◎	利用者様や家族の方に、あいむでの過ごし方等の希望を伺い、ケアに活かすことが出来た。また、利用日以外の利用調整を行っています。利用者様や家族の方から、「あいむに来るのが楽しみ」「あいむの日はほっとする」との話を頂いています。
2. 一人ひとりのケアの充実。利用者の「やりたい事」を実行できるデイサービスを目指します。	○	折り紙や縫物・ゲーム・洗濯物たたみ等、利用者様の個々の得手とする事を見つけて勧めることにより、「次は○○をしたい」との言葉が聞かれるようになってきています。
3. 外出、体操、創作活動等のプログラムの多様化を進め、楽しく過ごされる場所を作ります。	○	創作室内ゲームや季節を感じられる飾り物作り等、利用者が様々な形で参加・協力して楽しめる事を意識して実践してきました。外出制限があり、所内で過ごすことにより、体力や全身筋力、認知力の低下がみられています。今後の検討が必要と考えます。
4. 地域のイベント、行事への参加。季節を感じられる取組みを行います。	○	地域イベント・行事はコロナウイルス肺炎感染予防から中止となり、外出制限もあったことから実施は出来ていません。室内の装飾をあいむ恒例のドライブ先の景色を作成したり、室内であいむ祭りを開催し、季節を感じ思い出話に花を咲かせました。
5. 加算の取得を考え、単価を上げることを意識して業務を進めていきます。	×	送迎時間の調整を行い、1日の利用単位数の増加や職員の業務整理を行い、残業時間の減少に努めましたが、加算の取得に至りませんでした。
定量的な目標	結果	備考
介護保険(要介護、総合事業)		
年間実績数 8,200件、月683件、一日平均22.7件を目指します。	×	延べ利用者数7,503件、1日平均利用者数21.1件であり、目標達成に至りませんでした。理由としては1年を通してコロナウイルス肺炎で、7月の臨時休業や地方からの来客による利用者のお休み、体調不良による複数回利用者のお休みが大きく影響をしていると思われます。
定性的な目標	結果	備考
施設内・外の勉強会、研修を通し、スタッフが知識をもってケアに臨むことができるようにします。	△	在宅部門で感染対策の研修会は実施できましたが、施設外研修の参加が出来ませんでした。
「おもてなし」の心を持って建物、送迎車の掃除、整理整頓を行います。	◎	感染対策も含め、送迎車や所内の清掃・整理の実施が出来ました。

令和2年度 事業報告

部門名: 網走レインボーハイツ 在宅介護支援センター

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者、家族への「丁寧な」対応と「やすらぎと安心感」を提供する姿勢	○	傾聴姿勢は崩さずに利用者・家族へ安心感を提供した。
2. 利用者のサービス管理から健康管理、生活機能向上へ向けた管理	△	常に念頭において実施した。
3. 高齢者の状態変化への対応強化(認知症・中重度高齢者)	○	状態変化を見逃さず、随時対応している(サービス量、区分変更等)。
4. 医療との連携	○	医療職(医師、看護師、リハ職、薬剤師等)連携を図った。
5. 新規依頼は断らない。要介護のみならず要支援、事業対象者もマネジメントする	◎	困難事例も含めて断らず、他事業所からのケースも引き継ぎ、積極的にマネジメントを行った。
実行方針	結果	備考
1. 技術、重度化対応知識の習得(ソーシャルワーク+ケアワーク)	△	ケアワークについての学びの機会が少なかった。
2. サービス提供ネットワーク内での利用者の健康情報の共有と予後予測の習得	○	健康情報と予後について常に検討した。
3. 医療と介護の連携(多職種協働)による認知症、中重度高齢者マネジメント、生活機能向上	○	入院時の情報提供や、診察同行し主治医と協働した。
4. ケアマネ自身も支援者になる	○	ケアマネ自身、支援者になり利用者へのサポートを行った。
5. 総合事業への対応継続	◎	両地域包括支援センターより、積極的にマネジメントAおよびBの委託を受けた。
定量的な目標	結果	備考
1. ケアマネ5名体制(管理者除く)。特定事業所加算Ⅱ算定。その他加算の算定。	◎	5名体制維持し、特定事業所加算Ⅱ算定。初回加算を算定している。
2. 年間1,200件利用(介護給付)	◎	1,817件(介護給付)の実績だった。
定性的な目標	結果	備考
1. 5名体制でのチームワークづくりとフォロー体制の構築	○	ミーティング等により5名でのよりよい関係づくり、連携を図れることができた。
2. 最新のケアを知る(新しい助言へ)	△	学ぶ機会は少なかった。

令和2年度 事業報告

部門名: 網走レインボーハイツ ホームヘルパー派遣センター

結果凡例: ◎100%、○80~99%、△79%~50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者に「助かった・ありがたい」と感じていただけるようなサービス、笑顔を提供します。	○	利用者から新たな要望が出た時は、ケアマネジャーにフィードバックしました。
2. 利用者が「ご自分で、判断、決定してゆく」ことができるように、説明、助言します。	○	「利用者毎のこだわり」や「やりたい事」等を大事にしてきましたが、実現はとても大変です。
3. 利用者が困らないで生活できるように、温かく情報提供できるヘルパーを目指します。	△	出来る事を増やして頂くことは難しいですが、持続する事のサポートはできたと思います。
4. ご家族、町内会、援助者、介護保険担当者等との繋がりを大切にする気持ちを見守ります。	△	新しいお付き合いは、なかなか増えませんが、今までのお付き合いを、大切にすることはできたのではないかと思います。
5. 利用者の環境、からだ、気持ちの変化に応じた適切なサービスにより、利用者数を維持します。	○	より良いサービスを心掛けました。ヘルパー数は増えましたが、収入調整があり、新規利用者数の受け入れが困難気味でした。
実行方針	結果	備考
1. 利用者の希望を満たす、過不足のないサービスを目指します。	△	ヘルパー同士、担当者会議等で、見直しを繰り返しました。まだまだ、努力は必要です。
2. 利用者が意思決定する場面を意識しながら、サービス提供をします。	○	口から発する言葉だけではなく、思いを探って、理解しようと心掛けました。
3. ヘルパーは、利用者にとって、気楽に、安心して相談できる訪問者になります。	○	いつも心掛けていたと思います。
4. 対話を大切にし、ひきこもりがちにならないよう、話題を見つけ、声掛けをし、見守ります。	○	それぞれの利用者が、出来る限り自分の持てる力を発揮して生活できるようサポートできたと思います。
5. 利用者の変化を、素早く感じ取れ、他職種援助者との連携をとれるヘルパーを目指します。	○	同じヘルパーが続けて訪問することで、安心してサービスを受けて下さっていたように感じます。
定量的な目標	結果	備考
年間780件	○	年間813件でした。訪問介護員採用2名。更に利用者増を目指します。
定性的な目標	結果	備考
職員の健康管理、働きやすい体制を整え、やりがいのある仕事を長く続けられるように協力し合います。 利用者の痛み、とまどい、喜びに寄り添えるヘルパーを目指します。	○	利用者の体調や、生活状況の変化に気づき、サービス担当者間で連絡、情報共有できたことで、訪問に活かされたと思います。

令和2年度 事業報告

部門名： 大曲レインボーハイツ

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者さんに少しでも楽しみのある施設生活の提供。楽しみや目的を持った、大曲地域、大曲だからできるサービス提供方法を確立、小規模多機能の利用者確保に励みます。 ・必要な職員の補充を行い、施設内の家庭的な雰囲気作り、利用者さんが安心・安全・快適な生活が出来るよう環境を整え、ゆとりを持った介護を行えるよう、励みます。	△	新型コロナウイルスの影響で、外出や家族合同での行事は自粛し、利用者職員との行事を中心に行いました。
2. 一人ひとりに合わせた個別ケア、認知症ケアの推進を図ります。	○	丁寧な個別ケアを目指し取り組むことが出来ました。体調の変化を見逃さず、早期受診に務めたことで、入院日数も減少し、稼働率のアップにつながりました。
3. 一人ひとり、楽しく充実した生活、安心した施設生活を送れるよう、思いやりをもった介護が出来るよう、職員の定着、ユニットリーダー・サブリーダーの育成、基礎介護の向上に努めます。	△	他事業所への移動により、リーダー育成、基礎介護の向上につながり、ユニットリーダーとしての育成につながりました。
4. 大曲に根ざした施設として、地域との交流・協力・行事への参加を通して貢献できる施設を目指します。	△	利用者の参加は自粛していましたが、施設の代表として地域の行事等の協力体制は継続する事が出来ました。
5. 職員の定着を図り、安定した稼働率・小規模登録人数の確保に努めます。	○	なないろ館開設にあたり、職員の移動は数人ありましたが、職員の定着は順調でした。特養は98.3%と安定した稼働率を達成。小規模多機能は入院者、他施設への入所、死亡退所等あり、稼働が伸びませんでした。
実行方針	結果	備考
1. 各フロアの季節感、家庭的な雰囲気のある環境整備を図ります。 ・特養・小規模多機能の浴室床張り替え。・全トイレの手すりの設置。 ・調理(ミキサー・電子レンジ他)生活家電(液晶テレビ、洗濯機、掃除機、空気清浄機他)の交換、購入。他必要物の交換、購入。 ・褥瘡予防の為、体交枕、ベッドマットレスの購入、車いす用除圧マットの購入。食事、自力摂取の為の介護用食器、スプーンの購入。 ・職員の休憩スペース・更衣室の確保、介護職員の雇用【常勤・非常勤】 ・物品整理、保管用の物置の設置。 ・利用者のQOL向上を目指し、毎月のユニット費を確立することで、利用者の日常生活状況の改善を図る。	○	各ユニットで、季節感のある飾りつけを実施。家電等の交換・購入することが出来ました。
2. 認知症の理解を深める為の研修を通じて、疾患の理解・認知症ケアの充実にも努め、より一人ひとりの方を尊重した生活を過ごしていただけるよう支援します。	△	認知症の研修は実施する事は出来ませんでした。リーダー会議・ユニット会議にて、尊重した生活を過ごしていただけるよう個別に必要なケアを検討し取り組みました。
3. 介護の知識・技術向上のために基礎介護、介護記録勉強会の定期実施。 ・ユニットリーダー研修への参加(1名)、介護職員の各種研修会への参加を増やし、基礎介護、知識の向上を図ります。	×	定期的な勉強会は実施できませんでした。
4. ご家族との外出・交流行事、季節行事の推進、小規模多機能の年間計画の実行をすることで、家族、地域との顔なじみの関係、つながりを継続、維持します。 ・大曲老人クラブ加入者の見直し。 ・地域家族交流の為、交流スペースの確保 ・老人クラブ、西コミセン。町内会等行事への参加・協力、運営委員会への参加を継続します。 ・その他、大曲地域の自然災害対策委員会への参加などを通じて、周辺施設等と協力しながら地域の発展、活性化に尽力します。	×	新型コロナウイルスの影響で、面会・外出の自粛により行事・地域交流の場はほとんど出来ませんでした。
5. 小規模登録人数の目標平均を維持できるよう新規利用者の確保の為、送迎範囲の把握、大曲、西地区の地域性を理解し、大曲だからこそ出来る利用サービス形態の定着化、他居宅介護事業所や、病院との積極的な交流、小規模担当職員の増員を行います。 ・特養退所者が出た後の新規入所者への移行を速やかに行います。	△	西コミセンの行事には、利用者さんの参加は自粛し、管理者が代表で地域行事の手伝いとして参加していました。他事業所からの紹介で小規模に新規利用者の登録につながりました。
定量的な目標	結果	備考
特養：月平均17.5人 稼働率96.0% 小規模多機能：登録人数平均10人を維持できるよう努めます。	○	特養：月平均17.7人 稼働率98.3% 小規模多機能：月平均登録者7.5人、新規登録者5人 登録廃止者：他施設入所の為(2人) 死亡の為(1人)、長期入院の為(1人)、その他(1人)
定性的な目標	結果	備考
・大曲レインボーハイツならではのアウトホームな雰囲気の中で利用者・ご家族・地域の方と共に大曲地域に根ざした施設を目指します。 ・臨機応変な対応で利用者・ご家族が満足できるサービスを提供します。	△	新型コロナウイルスの影響で、面会等の自粛をお願いしながら、安全な面会方法を行い、できるだけご家族の要望に添えるよう考慮しながら対応しました。

令和2年度 事業報告

部門名： 向陽ヶ丘レインボーハイツ

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 少しでも利用者さんが楽しみある施設生活また、目的や楽しみを持った小規模多機能の利用に繋がるサービス提供に励みます。重度化対応に向け設備の修繕を行い、家庭的な雰囲気作り、環境整備への改善を図ります。また、食事を通しての楽しみやケアの充実を図ります。	○	コロナ禍で外出の制限はありましたが、施設内の行事企画や装飾など利用者さんの楽しみに繋がる環境づくりを行いました。食事面も各行事に季節に合わせた見た目から楽しくなる食事を提供できていました。
2. 一人一人に合わせた個別ケアの充実を図ります。	○	利用者さんの状態や既往歴に合わせ、個々に必要なケアを一人一人に行うことができていました。
3. 職員の想いや根拠あるケアの実現に向けて基礎介護の向上を図ります。利用者さんの些細な変化への気づき、根拠をもった統一したケアの向上に努めます。利用者さんの身体機能維持、向上への取り組みを行います。	○	リーダーを中心として、利用者さんの状態観察に努め、変化のある時にはすぐに受診や対策をし、身体機能維持の維持・向上の為に統一したケアをすることができました。
4. 地元地域を中心に交流、協力、連携、行事参加を図り、地域や家族との関係が途絶えることのない生活を目指します。	△	コロナウイルスの影響で、地域との交流や行事参加は出来なかったが、ご家族とは窓越しでの面会やオンラインでの面会などの環境を整える事で、繋がりを維持することができました。
5. 目標に向けた入所者の稼働率の安定、小規模多機能居宅介護における登録利用者の確保、登録利用の維持に努めます。	○	特養の稼働率は97.1%と目標値を上回ることができ前年度と比べ4.9%上昇しました。小規模多機能登録利用者に関しては平均10.6人であり、目標値をやや下回りました。
実行方針	結果	備考
1. 年間・月間計画を作成し、季節行事や施設内行事、食事の楽しみ企画、実行の充実を図ります。各フロアの季節感、家庭的な雰囲気ある環境整備を図ります。施設設備の修繕、修理。(他、必要備品の購入) ユニット内での感染症の蔓延への予防に繋げるため、空気清浄機の設置を検討します。(各フロア1台) 介護職員の雇用(常勤)1名、(非常勤)1名、生活支援業務の業務分担の見直し、効率を図ります。	○	季節行事は継続して行っており、行事に合わせた食事も提供できていました。空気清浄機も設置できました。職員については、非常勤職員の補充は出来ましたが、常勤職員がまだ足りていない状況です。
2. 個別ケアの充実に向け、一人一人に合わせたケアに繋がるよう統一したケアを行っていきます。排泄ケア用品(尿取りパット、紙パンツ等)の見直し、皮膚や自尊心に考慮した取り組みを行います。苦痛のない自然排便への取り組み、医療連携を図り、下剤薬の見直しを実施します。介護用品の整備、購入を行います。(褥瘡予防に特化したベッドマットレス2台、ポジションクッション 各ユニット、2～3種類)	○	リーダーを中心に個別ケアに取り組み、個人の状態に合わせたケアを行うことができています。下剤の見直しも個々の状態に合わせて徐々に行っています。しかし、介護用品整備・購入については、まだ十分とは言えない状態です。
3. 特養入居者及び小規模多機能型登録利用者、一人一人に担当職員を付け、個別介護の充実、情報共有の強化を図ります。事例検討を通し、基礎介護力の習得、向上を目指し、統一した個別介護に繋がります。ユニットリーダーによるダブルチェックを実施し、体調不良等の早期発見、迅速な医療連携を取れるよう努めます。職員の積極的な外部研修(認知症実践者研修、介護職員専門研修等)への参加できる体制作りを心掛けます。	○	各担当をつけることで、一人一人の責任感を生み、介護技術の向上にもつなげることができました。必要に応じて、コロナ禍の中でもオンラインでの研修なども含め参加できていました。
4. 地元町内会や老人クラブへの加盟の継続、交流を継続し、地域行事へ積極的に参加します。施設広報紙「にじ色便り」の定期的発行(年4回)、向陽地区への全地区配布の検討 運営推進会議を通し、地域の社会資源の把握、地域との情報交換を行います。家族と職員との懇談会、交流会の計画、実施を行います。	○	コロナウイルスの影響もあり、地域行事等への参加は出来ていませんが、広報誌や文章を通して地域や家族への情報公開、運営推進会議の開催などはできていました。
5. 退所者が出た場合の新規入所を10日を目標に速やかな新規入所対応に努めます。小規模多機能型居宅介護事業所の利用相談に可能な限り受け入れられるよう努めます。	○	今年度は退所者は3名で空所日数は18日、新規入所に至る期間が平均6日でした。小規模多機能型居宅介護について、利用相談も随時ありましたが、職員の欠員状況もあり、新規受け入れの体制が整わず、新規利用に繋がれなかった点もありました。
定量的な目標	結果	備考
1. 特養:ベッド稼働率 96%、総入院日数、年間200日以下を目標に取り組みます。	◎	特養の稼働率は目標値より、1.0%上回り、前年度と比べ、4.8%上昇でした。入院日数も176日と200日以下に抑えることができました。
2. 小規模多機能:登録人数 年間平均11.5人、登録利用人数11～12人の維持に努めます。	×	年間平均登録者および実績登録利用者数10.5人で目標数値には及びませんでした。
定性的な目標	結果	備考
1. 向陽ヶ丘レインボーハイツだからこそできる、生活感あふれる施設ケアを目指します。	○	特養、小規模多機能ともに、特性を活かした施設作りに取り組むことができていました。
2. 利用者、家族、地域との馴染みの関係作りを大切にします。	○	コロナウイルスの影響でこれまで通りとはいかなかったが、窓越しやオンラインでの面会や広報誌などを通し家族、地域との関係づくりに努めることができていました。

令和2年度 事業報告

部門名: みなとレインボーハイツ

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者の方が日々、穏やかに安定した生活が送れるよう、心身共にサポートします。また、笑顔で楽しめる機会を提供していきます。	○	なるべく希望に沿うことができるような支援を心がけました。利用者全員が満足 of いく形には至っていない部分もありますが、今後も皆様の希望に添えるよう努めます。
2. 集団生活の中でも、利用者の方一人一人がその人らしい生活が送れるよう支援します。	○	なるべく個々の生活スタイルに合わせて散歩や外出していただくことができました。
3. 利用者の方が年齢を重ねていく中でも、生活の中で役割を持って過ごしてもらえるよう努めます。	○	茶碗洗いや庭の手入れなど積極的に行なう方や、生活の中で役割を持って過ごることができた方もいらっしゃいました。一方で、高齢の方などは、できることを維持するのが精一杯の方もいました。
4. 防災の意識を高く持ち、地域に貢献できる施設を目指します。利用者の方に網走の四季を感じてもらえるよう、外出の機会を提供していきます。	×	防災訓練は実施できましたが、地域の方に参加していただくことはできませんでした。また、外出についても、今期は天候に恵まれず全員で外出することはできませんでした。
5. 職員一人一人が介護福祉施設職員としての自覚を高く持ち、日々成長をしていくことを心がけます。	×	人員不足で外部研修会等に派遣することができず、知識を高める機会が少ない状態でした。
実行方針	結果	備考
1. 毎日の健康チェック、異常の早期発見、早期対応により重度化を防ぎます。ストレスのない生活環境の提供に努めます。	○	骨折による入院はありましたが、異常の早期発見・対応はできていました。
2. 利用者とのコミュニケーションを密にとり、その人の希望を汲み取った支援計画を立て、それに沿った支援を行います。	○	利用者とのコミュニケーションをとりながら職員間で情報を共有し支援を行いました。
3. 介護レベルに応じた、生活リハビリテーションにつながる役割を各利用者者に持ってもらうよう取り組んでいきます。	△	毎日の体操は概ね継続できました。しかし、個別運動に関しては、対応できていませんでした。
4. 町内会との共同防災訓練の継続を含め、地域交流を積極的に行います。季節行事、外出行事を計画、実施します。	×	町内会の連絡網は整備されていました。しかし、防災訓練に参加する機会がなく、上手に活用されませんでした。また、地域行事には殆んど参加できませんでした。
5. 新人職員の指導、外部研修への参加、介護資格取得等を通じて職員一人一人のスキルアップを目指します。職員各自、あらためて自分の健康管理にも注意します。	×	人員不測のため、外部研修への派遣が難しく、スキルアップの機会を得ることが困難でした。また、職員の健康管理について、各自に注意喚起を行いました。中々シフトのどおりに勤務してもらうことが難しい状態でした。
定量的な目標	結果	備考
特養:稼働率 95%(月平均7.6人)	○	稼働率 95%(月平均7.6人)でした。
定性的な目標	結果	備考
利用者・家族・地域とのコミュニケーションを深めながら、小さい規模ならではの家庭的で温かい雰囲気を大切に施設運営を行っていきます。	△	地域(町内会)の活動には参加できず、会合の際に挨拶させていただく程度でした。特別な行事はできませんでしたが、一部の家族の方とは協力して面会の機会を増やすことができました。

令和2年度 事業報告

部門名： 養護老人ホーム ふれあい館

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1.自らが望む暮らしができるよう、ひとり一人の尊厳を護り、こころ温かなふれあいが感じられる「利用者本位」の施設を目指します。	△	「施設だからできない」を極力、なくして、ひとり一人の願いや想いを温かく受容・共感し、その人らしい暮らしが実現できる施設にしたい。
2.地域住民としての自覚がもてる生活環境づくりと地域との自由なふれあいが広がる「開かれた施設」を目指します。	△	西地区活動推進協議会の運営、イベント等に積極的に参加・協力している。ふれあいの家には入所者が継続的に参加する等、地域交流を推進している。
実行方針	結果	備考
1.経済的事情だけでなく、養護老人ホームで対応すべき特有の福祉的な生活課題を有した高齢者の入所を優先する。課題を数値化して入所順位を決める。複雑で多様な生活課題を抱えて入所に至った方々が、安心して穏やかに暮らせる環境と接遇・ケアを充実していく。	◎	一般3人、特定7人が新規入所となった。独居5人、虐待の疑われるケース1人、地域への迷惑行為が2人など、福祉的課題が顕著なケースが、網走市介護福祉課が措置依頼され入所している。施設からの入所は2人、病院からは1人となっている。9件が福祉的な課題を抱えているケースの入所となっている。
2.西地区地域活動推進協議会、大曲町内会、民生委員といった地域の人的資源との連携を深め、施設が地域活動に参画することで、地域の福祉的ノウハウの向上を図る。	○	西地区の地域交流事業、地域防災訓練等は感染症対策のため全て中止になっているが、協議会や高齢者部会の会議には担当ができる限り出席し、地域ぐるみの施設運営、社会化を進めている。
実行計画	結果	備考
1.施設という性格上、在宅では普通にできることに制限や支障が見られる。健康に関して必要な医学的管理と本人の望む暮らしの尊重にバランスよく配慮された生活が送られる。	○	自己実現(生活の質)と健康管理(医療)は、相反する場合が多い。個人の価値観や人生観と支援機関との摩擦といっている。利用者の自由を保障することと健康を守ること、納得できる折り合いを見出すことができるよう努力した。
2.入所者の虚弱化、重度化が進む中、本人の意志を尊重しながら、網走市・特養・老健、療養型病棟等との連携を図り、本人にとって最も適切な居場所を提供できるよう調整する。	◎	死亡が7人、長期療養が2人、特別養護老人ホーム入所1人という退所状況だった。施設内での死亡が3人、終末期ケアや急逝が多く、最期まで施設でケアしたことに家族から感謝される複数のケースがあった。
定量的な目標	結果	備考
1.要介護1以上が39人、介護3以上が10人と昨年度より6割増加している。着実に重度化(平均介護度2.2)しているため、重度者ケアの習得・技能向上、痰吸引等研修派遣等を行う。	○	難病と老衰による終末期(4件)は、医療依存が高くなる限界まで施設で介護し、入院後(平均)21.5日で死亡している。階ごとに職員を専任化するフロアケアを9月から施行したことで、「つながるケア」と「利用者主体」が充実された。
2.転倒は、117件(1月末現在)であり、受診等に至る事故は、9件と60%の減少となっている。一方で、一般浴室での転倒が増えているため、手すりや滑り止め、トイレ等の整備を図る。	◎	転倒は8件、誤薬3件、誤嚥1件という事故の内訳となった。転倒の不安が高い浴室は、手すりを増設したことで浴室での事故は皆無となった。転倒(ヒヤリハットのみ)だと69件と前年度から半減している。
3.重度化する一方で、自立した入居者は、無為に過ごすことが多いので、クラブ活動等の自主活動の推進、支援や外出や買い物など非日常的な「ハレの日」の企画を多くする。	◎	新型コロナウイルス感染防止のため、屋外に出かける行事、芸能披露(慰問)受入れは、すべて自粛した。代わりに、誕生会、ゲーム大会、映画会、スイカパーティ、クリスマス会、洋服店、おうちで夕食、手作りおやつなど館内でのイベントや催しを充実させた。
4.入所者の健康管理の充実と症状や疾病の早期発見、早期退院を模索し、95%程度(47.5人の平均在所)の入所率を目標とする。	◎	年間の入院者は30人、総日数は642日(1人平均・21.4日)であり、元年度より173日多くなった。利用率は、96.0%(一般98.4%、特定は96.5%)であり、目標を達成している。1日の平均在所者数は48人となった。
定性的な目標	結果	備考
1.入所者の重度化、課題の複雑化に対応できるよう職員の資質向上を目的とした研修会を毎月開催する。報告、連絡、相談の技能もレベルアップする。	○	新型コロナ感染防止で職員研修の中止が続いた中で、基本的介護(移乗等)の実技、重度の認知症の対応、新規職員に対する研修等を実施した。
2.ノロウイルスが施設内で感染したこと、さらに新型コロナウイルスといった感染症への理解や予防、対処法を習得する。「うつらない・うつさない・もちこまない」をスローガンとする。	○	感染症防止に関する理解を深める研修として、動画研修、予防着の着け外し方の指導等を行っている。「自分と施設を守る意志と行動を」というスローガンを1年間継続した。職員は自らを律するよう努めた。
3.高齢者を「敬う」「大切に」するという普遍的価値をどのように具現化するか、きちんと対象者に伝わるか、職員一人ひとりが基本に立ち返り自らをあらためることができる。	○	身体拘束廃止研修の中で、不適切ケアや言葉遣い、スピーチロック(心理的虐待)に関するグループ研修を行ない、基本に立ち返り、自らを改めることにつながっている。